

# 日大島根桜信会便り

日大島根桜信会便り第25号【通算29号】  
発行 平成30('18)年7月1日  
日大島根桜信会(日本大学通信教育部校友会島根県支部)  
坂本育穂 〒690-0871 松江市東奥谷町256-3  
Tel 0852-25-1419 Email sikutyuan@mable.ne.jp

## 第38回(平成30年度)日本大学通信教育部校友会 中国ブロック総会島根県大会開催 8月25日(土曜日)及び26日日曜日 於サンラポーむらくも(松江市)

今回は5年ぶりに島根県が担当します。付いては下記のように島根県校友の皆さんにご案内しますので奮ってご出席くださるようお願いいたします。

校友会島根県支部長 坂本育穂  
副支部長 宮崎健治  
会計幹事 岩崎幸夫  
幹事 周藤 昇・河野義男・村上謙武・酒井寛三・錦織正明・河津和彦

### 開催日時 1. 総会

平成30(2018)年8月25日(土) 於 松江サンラポーむらくも  
TEL 0852-21-2670

14:30～ 受付  
15:00 審議

16:30 講演 講師 松江中村茶舗代表取締役 中村寿男氏  
\*松平不昧公没後200年祭を記念して茶の湯に纏わる話をし  
て頂く予定

17:30 記念写真  
18:00 懇親会

### 2. 観光 8月26日(日) 9:00～13:00

- ①カラコロ工房 旧日銀松江支店(有形文化財)、工房内各種ショップ等見学
- ②徒歩で松江大橋を渡り、合銀本店展望台にて宍道湖景観眺望
- ③抹茶体験(抹茶の点て方、道具の解説、喫みかた等) 於 中村茶舗(松江天神町)
- ④屋食 出雲そば賞味 於「松本そば」(松江白湯本町)

3. 解散 13:00 同場所またはJR松江駅 [↑NHK朝ドラ「だんだん」のセットが復元してある店](#)

4. 参加費 16,000円 (会議費 2,000円 懇親会費 9,000円 観光費 5,000円)

5. 一泊 ツイン5,900円 シングル6,900円

\*部屋割りは当方に一任ください。宿泊費はそれぞれフロントにお支払いください。

6. 申し込み締め切り 同封ハガキにより8月5日まで。



「中国ブロック総会」松江大会の広告を掲載。同封の「日本大学通信教育部校友会会報」93号の7面。なお支部総会の報告もP5に。その他総会等の写真に坂本も登場(我田引水...で失礼)

平成30年度(平成30年7月1日現在) 校友会費納入の校友ご芳名

井上 明 (H28/文) 岩崎 幸夫 (S60/法) 大原 義隆 (S35/文) 河津 和彦 (H11/経)  
河野 義男 (S58/商) 斎藤 康子 (H18/文) 酒井 實三 (H07/商) 坂本 育穂 (S47/文)  
澤田 寿子 (S45/商) 下山 司 (H01/法) 周藤 昇 (S53/法) 中谷 徹二 (S62/文)  
錦織 正明 (H10 /商) 宮崎 健治 (S49/商) 村上 謙武 (H06/経) 山下竹子 (S47/法)  
(敬称略・五十音順)

毎年のご協力感謝に堪えません。有り難うございました。領収書に換えます。

【平成30年度校友会費をお願いします。年額1,500円

振替用紙を同封しています。ATMで納入下されると、手数料50円分が少なくて済み、事務局は大変喜びます】

振替用紙は上記の方以外に同封しています。

求職者の方へ



日々勉強

河野義男(S58/商)

退職して、半年になります。在職中は退職後に何をしようかと楽しみでした。しかし、退職間近となると不安になってきました。というのも自分にはこれと言ってライフワーク的なものがないからです。なので、当面仕事を続けることとしました。でも折角ですから教育とは別の仕事をしてみようと思いい、現在の職場で勤務することとしました。

独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構島根支部というのが、現在勤務する職場の正式名称です。長い名前なので「ポリテクセンター島根で働いています」と言っています。

これで大体の方は職務内容の見当がつくようです。私の所属する部署は、求職者支援課といえます。高校・大学を中退または卒業したが職業に就けなかった方、出産や子育てが終わった人で、再就職を目指す方などの雇用の保険の受給資格のない方のための無料公共職業を認定・指導する仕事というのが詳しい内容です。

私は地方公務員としての教員でしたので、雇用保険のことはよく理解していませんでした。ましてや、雇用保険受給資格のない人でも無料の職業訓練が受講できることなど知りませんでした。今では、この制度を教員の時に知っていたなら何人かの生徒の卒業後の就職活動の支援ができたかもしれないのと悔いています。

さて、教員として、10年近く過ごしてきて、仕事の進め方も物事の捉え方もすっかり教員流が身につけています。

しかし、職場が変われば仕事の進め方も、物事の捉え方も違います。この職場でも、まだまだ不勉強のため周囲の人たちに迷惑をかけたばなしです。この歳になっても、勉強・勉強の毎日です。

「死ぬまで勉強だ」と在職中は生徒達にさんざん言ってきましたが、なるほど本当だなあとつくづく思う毎日です。

あと書き 「反省」 今月はお覧のように河野義男さんから原稿を頂きました。この所、大原義隆さん、村上謙武さんから毎号原稿を頂戴しています。これまでは、編集子主体の原稿で編集していましたが、できれば校友の原稿ももっと多く取り上げて行くべきだと大いに反省している所です。今後は皆さんの原稿に期待を掛け、一層充実した楽しい新聞にしたいものと思うので、編集子依頼の節は快く対応くださり是非一筆お願いする次第です。

「学生の状況」 会報の関通信教育部長の話にもあるように我が大学全通学生の70%が関東周辺に集中しています。「地方創成」が例え声高に叫ばれても「一局集中」は容易に解消しない状況。「日本大学新聞」の18年度入試高校ランキングを見ても我が県出身の合格者は皆無(但し10人以上)。山陽3県では各々計30名もいて羨ましい(坂)